

鹿屋市の有機農業の取組

鹿屋市農政課

令和8年7月9日

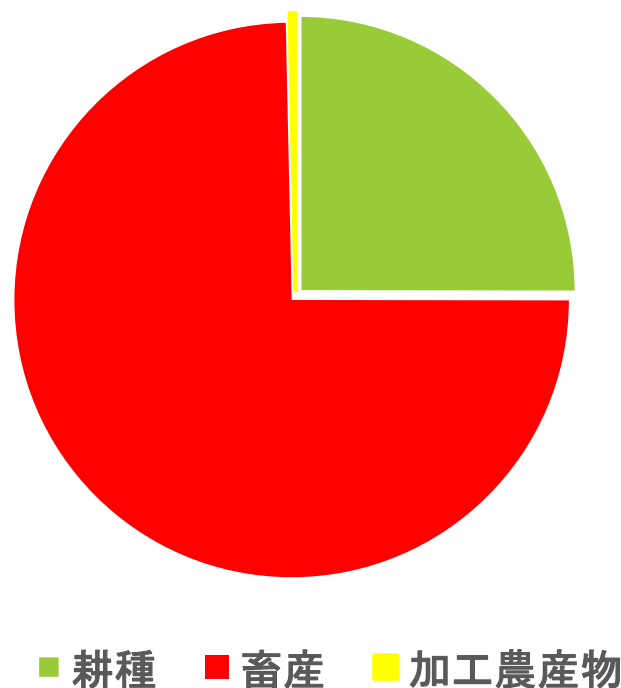
目次

- 鹿屋市の農業概要
- 有機農業の取組みに至る背景
- 鹿屋市の有機農業の現状と課題
- 鹿屋市有機農業推進協議会について
- 鹿屋市独自の取組み
 - ・有機農業セミナーの開催
 - ・鹿屋市農業まつりでの有機農産物販売及びPR
 - ・学校給食への有機食材の試験的供給
- 今後の取組み

鹿屋市の農業概要

鹿屋市の農業は、農業産出額ベース(R5)で、鹿児島県内順位2位、全国順位12位となっています。
また、鹿屋市の農業において、耕種農業の割合は25%、畜産農業の割合は75%となっており、農業産出額でみた鹿屋市の農業の中心は「畜産農業」となっています。
「畜産農業」の農業産出額に焦点を当てると、鹿児島県内順位は1位、全国順位は3位となっています。

鹿屋市の農業算出額(4, 695, 000万円)の内訳

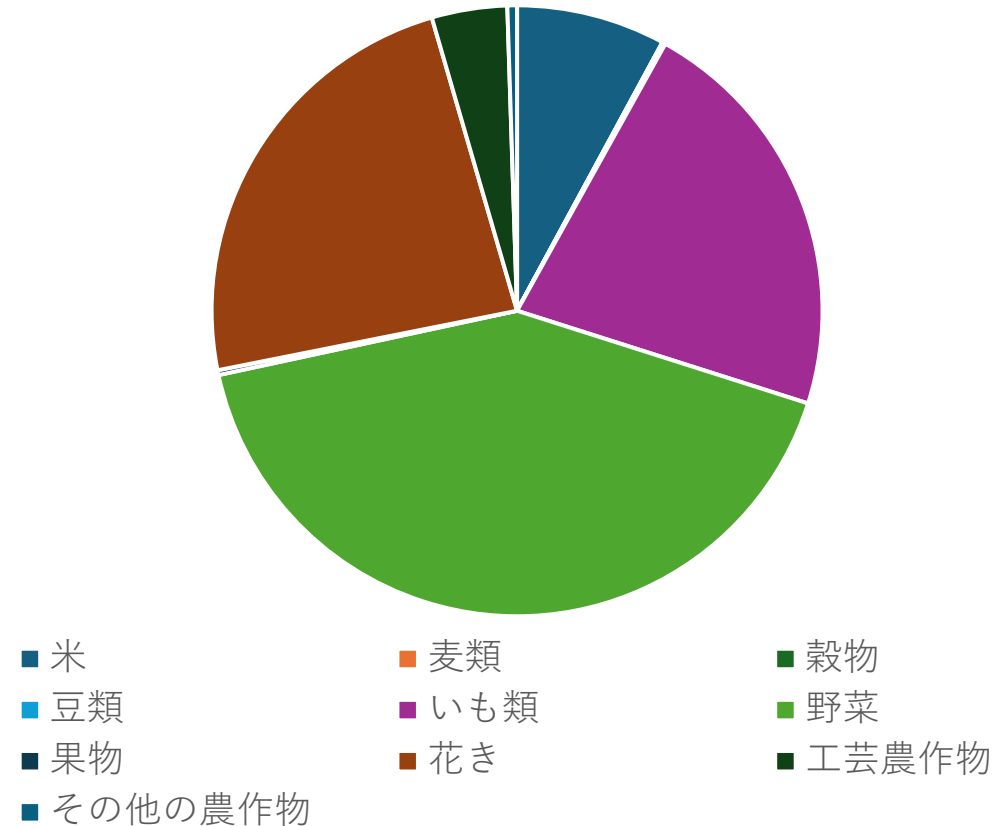


出典: 農林水産省 R5市町村別農業産出額(推計)

鹿屋市の耕種農業

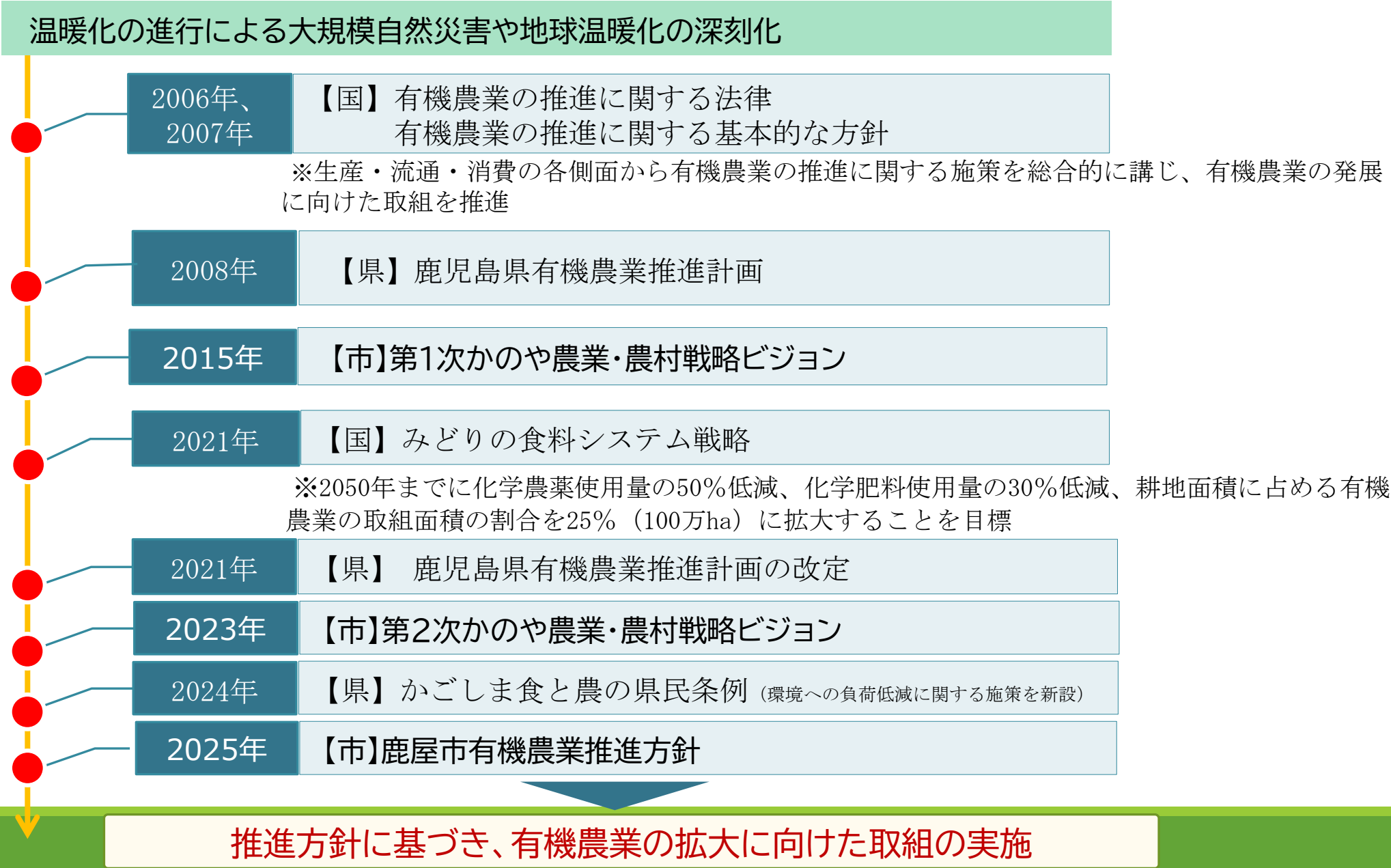
鹿屋市の耕種(農作物)農業は、農業産出額ベース(R5)で、鹿児島県内順位3位、全国順位112位となっています。
また、鹿屋市の耕種農業において、農業産出額の割合が高く、強みとなっているのは「野菜」となっており、鹿屋市の農業産出額の42%を占めています。
続いて「花き」24%、「いも類」22%となっています。

鹿屋市の耕種農業に関連する農業算出額(1, 175, 000万円)の内訳



出典: 農林水産省
R5市町村別農業産出額(推計)

鹿屋市の有機農業の取組みに至る背景



鹿屋市の有機農業の現状と課題

(1) 環境保全型農業の取組

「第2次かのや農業・農村戦略ビジョン(2023年3月策定)」に基づく取組を推進
(国の「みどりの食料システム戦略」やSDGsを踏まえた環境保全型農業の推進)

- ヒートポンプ、環境制御装置を活用した取組(化石燃料の使用量低減)
- 土壌分析による適正施肥、堆肥入り肥料の活用
- 国等の補助事業を活用して有機面積拡大に向けた取組



鹿屋市の有機農業の現状と課題

(2) 現状

有機農業の面積推移(鹿屋市調べ)

取組状況	R 4 (当初)	R 7 (現状)	R14 (目標)
生産者数 (件)	11	19	—
取組面積 (h a)	46	87	156
耕地面積に占める有機面積の割合 (%)	0.5	0.9	—

(参考)

日本国内における有機面積の占める割合 約0.43% (R 4時点)

鹿児島県内における有機面積の占める割合 約0.98% (R 4時点)

- 主な品目としては、茶＞露地複合野菜(玉ねぎ、ごぼう、キャベツ、ブロッコリー、生姜)＞さつまいもなどがある。



鹿屋市の有機農業の現状と課題

(3) 課題

- 生産コストの大幅な増加
慣行栽培と比べて、病虫害・雑草対策に要する労働時間や生産コストが大幅に増加
- 消費者や実需者の理解が不十分
有機農業や有機JAS認証、慣行栽培との違いなど消費者や実需者の理解が十分とはいえない状況
- 再生可能な販売価格では取引が難しい状況
- 販路が限定的
有機農産物を取り扱っている専門店や一部量販店において有機農産物コーナー等はあるものの、販路が限定的



鹿屋市有機農業推進協議会について

(1) 設置目的

「第2次かのや農業・農村戦略ビジョン」に基づき、本市の農業特性を踏まえながら、有機農業の生産拡大等に向けた基本的な方向性を検討し、課題解決等に向けた鹿屋市有機農業推進方針を作成し、有機農業の推進に努める。

(2) 具体的な活動

- ① 鹿屋市有機農業推進方針の作成
- ② 有機農業の振興に関する協議・検討
- ③ 有機農業の推進に向けた関係機関・団体等との連携

鹿屋市有機農業推進協議会について

(3) 鹿屋市有機農業推進方針の策定

日程	内容	備考
令和6年6月	第1回協議会	生産振興上の課題や方針の方向性について意見交換を実施
同年10月	第2回協議会	第1回の検討内容を踏まえ、方針(案)を協議
同年12月	第3回協議会	推進方針(案)の内容をブラッシュアップ
令和7年3月	第4回協議会、推進方針の策定	推進方針の内容をブラッシュアップ

鹿屋市有機農業推進方針（概要版）

項目		取 組 内 容	項目	取 組 内 容
1 有機農業の生産拡大に向けた取組	(1) 栽培技術等に関する事項	① <u>土壌分析による環境に配慮した土づくりの推進</u> ・良質堆肥や緑肥等を活用した土づくりの推進 ・土壌分析による有機質肥料の適正使用の推進 ② <u>有機農業の栽培マニュアル等を活用した推進</u> ・県の有機 J A S 指導員など関係機関・団体と連携した栽培技術指導 ③ <u>補助事業等を活用した省力化機械等の導入支援</u> ・リモコン草刈機、自動操舵システムなどスマート農業機械等の導入支援 ④ <u>労働力の確保支援</u> ・マッチングアプリ等による人材確保や農福連携の活用支援 ⑤ <u>農地の確保等</u> ・地域計画等を踏まえた農地の集積・集約化の促進	2 有機農産物等の消費拡大・販路開拓に向けた取組	(1) 有機 J A S 認証の普及 ・実需者ニーズへの対応や消費者が明確に有機農産物を認識し購入するための有機 J A S 認証の普及・啓発 ・<u>農産物や加工品における有機 J A S 認証の取得促進</u> (2) 市内外の流通業者・販売業者等との連携 ・<u>有機農産物等の卸売業者やスーパー・直売所、飲食店等と連携し、有機農産物等の消費拡大や販路開拓を推進</u> (3) インターネット販売等の活用推進 ・インターネット販売やふるさと納税制度の活用による有機農産物等の消費拡大や販路開拓、販売機会の多様化を推進 (4) 消費者への理解促進 ① <u>有機農業に関するイベントの開催や市農業まつり等における情報発信</u> ② <u>市ホームページや S N S、セミナー等を通じた有機農業の取組事例等の紹介</u> ③ <u>市民ふれあい農園や学校教育現場等における有機農業に関する学習機会の創出</u> (5) その他 ・<u>有機農産物等の市内学校給食や医療福祉施設等での利用促進</u> ・有機農産物等の需要に関する情報収集や農業者等への提供
	(2) 農業者への普及・啓発に関する事項	① <u>市ホームページや S N S などの広報媒体やセミナー等を通じた有機農業の取組事例等の紹介</u> ② <u>有機農業の栽培マニュアル等の紹介</u> ③ <u>有機農業に関する補助事業等の紹介</u> ④ <u>農薬取締法等に基づく農薬の適正使用や飛散防止対策の周知</u>		
	(3) 推進品目に関する事項	・本市は、台風や桜島降灰の被害を受けやすいことから、さつまいも、ごぼう等の根菜類や、ピーマン、花き等の施設栽培、茶、水稻、飼料作物 など多様な作物が栽培 ・<u>有機農業においても、本地域の気象条件等に適した品目を中心に生産</u> ・推進品目については、研究機関等の情報や需要動向等を注視し、関係機関・団体と連携し柔軟に対応		
※下線は本市の特徴的な取組				

鹿屋市独自の取り組み

(1) 有機農業セミナーの開催(R6)

- 日時: 令和6年11月15日(金)
- 場所: 鹿屋市農業研修センター2階 大会議室
- 出席者: 42名(うち19名が生産者)
- 内容:
 - ・有機農産物の販売状況について(イオン九州株式会社)
 - ・有機栽培の取組事例等について(かごしま有機生産組合)
 - ・有機JAS認証制度等について(特定非営利活動法人 鹿児島県有機農業協会)
- 参加者からの意見
 - ・有機農産物の栽培には土づくりが大切だと分かった。
 - ・消費者への理解を深める活動も大事だと分かった。
 - ・生産者の大変さが分かった。 など



鹿屋市独自の取組み

(1) 有機農業セミナーの開催(R7)

- 日時: 令和7年12月17日(水)
- 場所: JA鹿児島きもつき どっ菜市場 会議室
- 出席者: 26名
- 内容:
 - ・有機JAS認証制度等について(特定非営利活動法人 鹿児島県有機農業協会)
 - ・有機農産物の栽培方法について(一般社団法人 次代の農と食をつくる会)
- 参加者からの意見
 - ・肥料や緑肥の使い方について参考になった。
 - ・最初から有機JAS認証の取得は難しいと感じた。
 - ・有機農業で収益と経費のバランスをとるのが大切だ。 など

鹿屋市独自の取組み

(2) 鹿屋市農業まつりでの有機農産物販売及びPR

- 有機農業をめぐる情勢(農林水産省)や取組の事例紹介、パネル等の展示
- かごしま有機生産組合や生産者による有機農産物販売を実施



鹿屋市独自の取り組み

(3) 学校給食への有機農産物供給

これまでの経緯

- 鹿屋市立の給食センターは、1日に使用する食材の使用量が多いため、量の確保や規格、価格面等から、導入には大きな課題がある。
- 鹿屋市有機農業推進協議会の中で、委員から有機農産物の学校教育への積極的な活用について意見があった。
- 市内で生産される有機農産物を学校給食で使用することは、食育や地産地消につながることから、少量からの導入を試行的に実施した。

鹿屋市独自の取組み

(4) 学校給食への有機食材の試験的供給

- 市内有機JAS認証取得者が生産した野菜

品目	小松菜、じゃがいも、キャベツ、ブロッコリー
----	-----------------------

- 提供日

使用日	担当給食センター	対象校	
令和7年6月24日～ 令和8年2月27日まで 計35回	北部学校給食センター	小学校	寿、寿北、細山田
		中学校	細山田
		小学校	笠野原、高隈、大黒、輝北
		中学校	鹿屋東、高隈、輝北



鹿屋市は市内の小中学校計11校の給食に、地元で採れた有機栽培の小松菜を使った給食を提供した。卵などと一緒に入れたスープにし、児童らがおいしく味わった。写真。

学校給食での地産地消と有機農産物の利用促進を図ろうと、北部学校給食センター管内を対象に試験的に実施。有機JAS認証を受けている市内農家への納品意向調査の結果、小松菜になった。6月24、25の両日に行い、合わせて約3900食分、計47校を使った。

「生産者に感謝」 鹿屋・11小中校

24日に提供された寿小では、児童がスープをおかわりをする姿も見られた。6年の中原翔太さんは「おいしい。有機が他のメニューにも広がってほしい」。献立を考えた同センターの栄養教諭、間宮紗矢香さん(27)は「地元生産者への感謝の気持ちを持って食べてもらえたら」と話した。

市教育委員会などによると、小松菜を使ったメニューは7月も提供する予定。市内の他2カ所の給食センターは今回の取り組み状況などを参考に検討していく。(堀野雄樹)

地元有機栽培の小松菜 給食に

地元産有機食材使った

こまつなと卵のスープ 鹿屋市給食で

地元産の有機小松菜を使った「こまつなと卵のスープ」が、令和7年6月24日と25日、鹿屋市内の学校給食で提供された。



今回は、使用可能な有機食材を使って、鹿屋市北部学校給食センターで試行的に実施されたもので、24日が寿、寿北、細山田の3小学校と、25日は、笠野原、高隈、大黒、輝北の4小学校と鹿屋東、高隈、輝北の3中学校で実施された。

▲令和7年6月29日付南九州新聞

▲令和7年7月2日付南日本新聞

今後の取組み

- 国、市等の補助事業を活用し、有機農業の拡大
- 有機農業セミナーの開催
- 有機栽培の展示ほ設置
- 学校給食への有機食材の試験的供給
- 市農業まつり等のイベントにおける有機農産物販売PR